

# ピオグリタゾン錠「NS」 ピオグリタゾンOD錠「NS」

## を服用される患者さんへ

ピオグリタゾン錠「NS」

15mg



30mg



ピオグリタゾンOD錠「NS」

15mg



30mg



インスリンの働きを高めることにより高血糖を改善する2型糖尿病の治療薬です。  
以下の点に注意してください。  
この注意は必ず家族やまわりの方にも知らせておいてください。

(1)この薬を服用中に、むくみ(浮腫)や急激な体重増加、息切れ、動悸などがあらわれることがあります。とくに心臓の病気のある方は注意してください。また、このような症状があらわれた場合は、この薬の服用を中止し、すぐに主治医に相談してください。



◆むくみ(浮腫)：足や全身のむくみ、顔や目がはれぼったいなど

◆体重増加：体重はできるだけ毎日測定し、急激な増加に注意してください

◆息切れ：からだを動かすと息が切れる、息苦しいなど

◆動悸：激しい運動をしていないのに心臓がドキドキするなど

これらの症状は、この薬を服用し始めてから早期にあらわれることがあります。  
また、次の方はとくに注意してください。

- 心臓の病気(心筋梗塞、狭心症、心筋症、高血圧性心疾患など)のある方
- 肝臓や腎臓に障害がある方
- インスリンを併用している方

(2)低血糖症状があらわれることがあります。

この薬とほかの糖尿病薬を併用した場合に、低血糖症状があらわれることがあります。  
とくにインスリン製剤やインスリンの分泌を促す薬(SU剤)との併用時にリスクが高まる場合があります。

### 低血糖の症状及び特徴

- ・血液中の糖分が少なくなりすぎた危険な状態です。力の抜けた感じや、急な強い空腹感、冷や汗、動悸、手足のふるえ、目のちらつき、頭痛が起こったり、ぼんやりしたり、ふらついたり、いつもと人柄の違ったような異常な行動をとることもあります。低血糖の症状がひどい場合は、けいれんを起こしたり、意識を失ったりすることもあります。
- ・特徴として空腹時に起こりやすく、食べ物をとるとすぐに良くなります。



(必ず裏面もご覧ください)

### ◆この薬を服用中に低血糖症状があらわれたら

・低血糖症状が軽いうちは糖分(砂糖、ブドウ糖など)をとると治ります。普段から糖分(スティックシュガーやブドウ糖など)を持ち歩き、低血糖症状があらわれた場合は、すぐその場で糖分をとってください。

ただし、 $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害剤(アカルボース、ボグリボース、ミグリトール)を併用して低血糖症状があらわれた場合は、砂糖では効果が不十分ですので、必ずブドウ糖をとってください。

・低血糖症状があらわれた場合は、必ず早めに主治医に報告してください。

### ◆高所作業、自動車の運転など危険を伴う機械の操作に注意してください。

高所作業や自動車の運転など危険を伴う機械を操作している時に、低血糖症状があらわれると事故につながるおそれがありますので、特に注意してください。

### (3)この薬と膀胱がんについて

この薬を服用された患者さんで膀胱がんの発生リスクが増加する可能性が完全には否定できませんので、以下の点に注意してください。

- ・膀胱がん治療中の方はこの薬を服用しないこととされています。膀胱がんと診断されたことがある場合は、主治医に伝えてください。
- ・また、膀胱がんの早期発見のため、**血尿**や**頻尿**、**排尿痛**などの症状がみられた場合には、すぐに主治医に相談してください。
- ・くれぐれもご自身の判断で薬をやめないで、心配な方は主治医に相談してください。

◆**血尿**：尿が赤くなる(痛みを伴わない場合が多い)

◆**頻尿**：排尿の回数が多くなる

◆**排尿痛**：急な尿意や排尿時の痛み

### (4)その他に次のような症状があらわれることがあります。

これらの症状に気づいた場合は、主治医に相談するようにしてください。

- 食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる、全身倦怠感
- 脱力感、筋肉痛、褐色の尿
- みぞおちの痛み、吐き気、黒色の便
- 発熱、咳、息苦しい

### (5)この薬は必ず主治医の指示に従って服用してください。

- ・薬の量や飲み方は主治医の指示を守りましょう。
- ・食事療法、運動療法をきちんと守りましょう。
- ・食事時間の遅れ、少量の食事、炭水化物の少ない食事、激しい運動をする場合は注意してください。
- ・その他不快な症状が気になる場合は主治医または薬剤師に相談してください。

(必ず表面もご覧ください)

医療機関名・連絡先：

日新製薬株式会社

2017年3月改訂 A